

株式会社 JA ライフ クリエイト 福島

生活用品の展示会開催

10月～12月にかけて、JA主催の展示会を各方で開催いたしました。会場内では、液晶テレビや冷蔵庫、掃除機などの家電製品やマッサージチェアなどの健康機器、羽毛布団などの寝具類、オーガーマイドのスーツといった衣料品をはじめとする生活用品各種の展示、販売を行いました。

これからの厳しい寒さに向けた季節商品を取り揃え、家電製品に関しては寒冷地用エアコンやファンヒーターなど、衣料品に関しては機能性のある肌着やレックウオーマーなど幅広く取り揃えました。また

組合員の皆様の快適なくらしを支援するための商品を各種お届けいたしました。

そのほか会場内では、調理家電やお掃除ロボットなど家電製品による実演を行い、より商品の特徴を実感できるような展示を行いました。展示だけでなく、住宅リフォームの相談コーナーの設置や抽選会などのイベントも実施いたしました。

今後の展示会につきましても、組合員様に楽しくご来場いただける展示会を開催できるよう、魅力ある提案をしてまいります。

展示会場内の様子



来場者でにぎわう会場内



総合衣料品展示会場内の様子



展示商品をご覧になる組合員様



総合展示会場内の様子

生活用品・住宅リフォームなどのお問い合わせは
株式会社 JA ライフ クリエイト 福島
生活課・各営業所まで

JA全農北日本 くみあい飼料株式会社

平成28年度

配合飼料安定基金加入について

日本の畜産経営をみんなで支える配合飼料安定基金制度
配合飼料安定基金への継続加入をよろしくお願ひします

配合飼料価格安定制度は、輸入飼料原料に由来する配合飼料の短期的で、かつ急激な変動が畜産経営に与える影響を緩和することを目的とした制度です。

加入生産者等から一定のルールのもとに積立金を徴収し、それを財源として配合飼料の値上りがあった場合に一定の要件のもとに補てん金を交付することにより、配合飼料の値上りにより受ける加入生産者の畜産経営への影響を緩和することを目的としています。

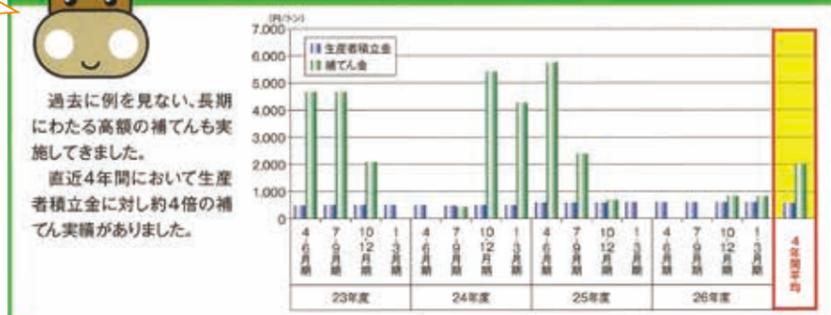
昭和43年の基金制度の発足以来、現在まで加入生産者の積立金総額の4倍以上の金額が補てん金として交付されており、加入生産者にとって充分に有利性があります。畜産経営にとって、この基金はなくてはならないものとなっております。

配合飼料安定基金はこれからも畜産経営のつよみかたです。

がんばろう日本の畜産



補てんの実績が、確かな証拠です



過去に例を見ない、長期にわたる高額の補てんも実施してきました。直近4年間において生産者積立金に対し約4倍の補てん実績がありました。

加入はお早め!

お問い合わせはお近くのJAグループ窓口へ
JA / JA全農 / 県連 / くみあい飼料

畜産部

『福島牛の首都圏販売フェア開催について』

JA全農福島は、東日本大震災以降、「福島牛」ブランドの復活を目指して、首都圏の流通業者や販売業者と連携し、食肉市場を核とした総合的な「福島牛」ブランドの情報発信や販路拡大に努めております。今回はその取り組みの一環として実施された「福島牛」フェアについてお知らせいたします。



平成27年11月28日(土)、東京都内千駄木の株式会社コシツカハムにおいて、福島牛のフェアを実施いたしました。フェアでは、肉牛生産農家みずから店頭立ち「福島牛のしゃぶしゃぶ」の試食をふくめ、直接消費者に対して安全性のPRを実施しました。当日は晴天に恵まれ、多くのお客様が来店いただき、「脂がさっぱりしていて美味しい」等の意見が多く聞かれ、大変好評でした。特典として、福島牛を購入して頂いたお客様へ福島県産米「天のつぶ」を、抽選で福島県産「りんご(サンふじ)」をプレゼントいたしました。

平成27年12月9日(水)、川崎市の株式会社五光(さつき橋店・藤崎店・向河原店・古市場店の4店舗)において「福島牛の焼肉」の試食販売を実施いたしました。株式会社五光でのフェアは、震災以降4年連続で実施しており、消費者からの反響も好評なため、定番商品として「福島牛」を取り扱うことになりました。

今後も生産者・JAと連携しながら、安心して安全な「福島牛」を消費者へお届けできるように販売促進に努めてまいります。

園芸部

自慢のあんぽ柿を全国へ

「平成27年産福島県あんぽ柿出発式」

福島県や福島市、伊達市、桑折町、国見町、関係団体で構成されている「福島県あんぽ柿産地振興協会」は、12月8日(火)に、伊達市のJA伊達みらい梁川共選場で「あんぽ柿出発式」を行いました。同協会の半澤正志会長は「おいしく、安全で品質のよいあんぽ柿を消費地に届けていく。福島県のあんぽ柿は90年の歴史を誇る。福島県の産地再生とさらなる振興に一丸となって取り組んでいく」と挨拶しました。

本県産のあんぽ柿は、東京電力福島第一電力発電所事故により加工自粛となっていました。平成

25年度より、国や県の指導のもと加工再開モデル地区を設定し、全量非破壊検査やGAP(生産工程管理)の導入を条件に加工・出荷を再開しています。出荷再開3年目を迎える今年は、加工再開モデル地区が伊達市、桑折町、国見町の全域、福島市の一部も加わり、昨年の61地区から95地区に拡大し、出荷量は震災前の75%に当たる1,157トン計画されています。また、国の支援により非破壊検査機器も昨年の26台から33台に増設され、安全性における全量・全袋検査体制も強化しました。



出発式で挨拶を行う半澤正志会長



テープカットの後、消費地へ向けてあんぽ柿が出荷されました。



あんぽ柿の試食をする関係者